

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	美術振興事業				担当部	教育委員会事務局				
	会計区分	一般会計		事業類型	一般事業		担当課	文化振興課			
	事業期間	平成12年度以前		～	平成31年度以降		担当係	文化振興係			
	総合計画 新基本計画	施策等	4 教育文化		15 文化振興		1 市民が文化芸術に親しめる機会を充実します				
			重点事業		実施計画事業						
	予算区分	款	10	項	5	目	5	大	3	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市文化振興ビジョン									
	目的	何・誰を対象に	美術に触れる機会が少ない市民								
		どの様な状態にするのか	美術への関心を高め、美術文化の振興を図る。								
	内容(手段) 目的達成のため どのような事業 を実施したか	<p>○27年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民美術展(3,243千円) 市民からの作品を公募することにより市民の美術への関心を高め、美術文化の振興を図ることができた。10月25日から11月3日の会期で実施し、一般出品作品349点、賛助・依頼作品53点を展示し、延べ5,210人の入場者があった。 また、美術展終了後、優秀作品の特別展示を各市民センター及び公民館で行い、地域での鑑賞の機会を提供した。職員は市民美術展常任・運営委員会の開催、事前PR、展示の設営、スケジュール管理を行った。 ・美術鑑賞講座(85千円) 2月28日から3月13日の日曜日に3回実施した。親子を対象に、作品づくりを体験し、大人と子どもと一緒に鑑賞のヒントを学ぶことを目的とした実践型の講座を開催し20組40名が受講した。職員は講師の手配・受講料の徴収・講義の運営補助を行った。 ・巡回ミュージアム 文化振興課所有のレプリカ絵画の巡回展示を6月29日から2月5日まで希望する中学校7校で実施し、身近なところで世界の名画に触れる機会を提供した。職員は、学校との日程調整・レプリカ絵画の運搬を行った。 ・美術鑑賞共催事業(1,000千円) 所蔵企画展 みどり図鑑 緑をめぐる3つの視点 5月13日～7月12日、所蔵企画 特別企画展「鈴木五郎 土に生きる 土に遊ぶ」7月24日～9月23日、コレクション名作展 2015 美しいとき 美しいひと 10月1日～12月23日 来場者38,460人(招待券利用者3,296人、割引券利用者184人) ・市民ギャラリー企画展(423千円) 「ドンカジョン万博」を6月18日～6月28日、「幽玄の世界～能面・能版画・切り絵展～」を9月16日～9月21日、小牧高校写真部 写真展～輝く牧高生～」を12月16日から12月24日まで行い、様々な作品を紹介した。 ・ギャラリー一用消耗品費等(49千円) <p>○28年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術鑑賞講座講師謝礼(85千円) ・ギャラリー一用消耗品費等(50千円) ・美術展開催委託料(3,207千円) ・美術鑑賞共催事業委託料(1,000千円) ・市民ギャラリー企画展開催委託料(1,000千円) 									
受益者負担	有 美術鑑賞講座1,500円×20組=30,000円										

コスト			単位	H25決算額	H26決算額	H27決算額	H28予算額
	費用	直接経費		千円	7,034	5,805	4,800
正職員		従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
		人件費	千円	550	550	550	550
その他職員		従事者数	人	1.00	1.00	1.00	1.00
		人件費	千円	2,186	2,187	2,297	2,334
費用合計		千円	9,770	8,542	7,647	8,226	
対前年比		%		87.4	89.5	107.5	
財源	一般財源		千円	9,761	8,524	7,617	8,196
	国・県支出金		千円	0	0	0	0
	その他財源		千円	9	18	30	30

業	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28	
	美術展出品作品数	点	目標		370	370	370	370
実績				356	335	349		
共催事業展覧会	回	目標		3	3	3	3	
		実績		3	3	3		
績	成果指標名	単位		H25	H26	H27	H28	
			美術展入場者数	人	目標	5,500	5,800	5,800
				実績	5,605	5,127	5,210	
				目標	2,000	3,000	3,000	3,000
				実績	2,765	2,968	3,296	

事業の自己評価	平成27年度の実施結果	事業の達成状況	市民美術展は、ギャラリートークの開催や、ギャラリーイベント(デッサン実演)の実施など、市民が美術に親しめるよう工夫したが、入場者数は目標値に達しなかった。美術鑑賞共催事業は、招待券等を利用した入場者が増加し、目標値を上回った。				
		事業実施における課題	市民美術展は、美術協会・書道連盟・写真連盟と連携して実施しているが、会員が固定化しており高齢化が懸念されている。美術展に出品していない市民の創作意欲の高揚や来場者数の増加を狙い、会期中にワークショップなどの新しい取り組みを行っているが、直ちに大きな効果は得られていない。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	誰もが気軽に市民美術展に参加できる機会と、市民の美術に対する魅力を存分にアピールできる場が失われ、芸術への関心が低下する恐れがある。小牧市の誇りであり文化資産でもあるメナード美術館に、気軽に足を運び、名画に触れる機会を提供することができなくなる。				
	平成28年度の改善内容	28年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	美術鑑賞共催事業に関連し、メナード美術館と連携して市民ギャラリーでの企画展やワークショップを実施することで、市民が気軽に美術文化に触れる機会を提供するほか、市民ギャラリーの周知および美術鑑賞共催事業の宣伝につながる相乗効果を狙う。				
平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)				
	判定理由	昭和33年から実施している歴史ある市民美術展は、気軽に美術作品を出品・鑑賞できる場として、美術愛好家の底辺の拡大と質の向上を図る上で有効であるが、新しい参加者を集めるためには、内容が陳腐化しないよう見直し、工夫することが必要である。					
	29年度以降の改善案	市民美術展の会期中イベント(ワークショップ等)の内容を改善しながら継続的に実施することで、出品者だけでなく来場者にもわかりやすく魅力を発信し、気軽に美術に触れる機会をつくる。小牧市の文化資産であるメナード美術館と連携することによって、市民の誰もが芸術に触れやすい環境づくりを積極的に推進し、美術文化の裾野を広げる工夫をする。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。 新たに設立する文化財団での実施にあたり、これまでの事業内容を検証するとともに、より効果的な実施内容に向けて見直しを行うこと。